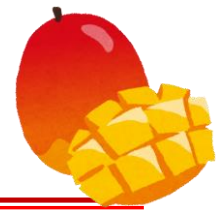




サンビオティック農業で大豊作！

マンゴー 栽培基準



◆本園◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
8月	土づくり	バーク堆肥 菌力アップ スラグ肥料、または 有機石灰	1～2トン 5リットル 100～200kg	土壌散布 灌水 土壌散布	良質な堆肥がない場合は、五穀堆肥50袋／10aを使用します。畜産堆肥であれば、牛糞堆肥や馬糞堆肥なら1～2トン、鶏糞堆肥や豚糞堆肥なら500kg程度。堆肥の上に菌力アップ5Lを適宜希釈して散布します。土壌pHを計測し、5.5以下の圃場ではスラグ肥料や有機石灰等でpHを矯正します。最適pH 6.0(5.5～6.5)に合わせます。また、土壌分析を行い、微量要素過不足を調整するようにします。
	元肥 (礼肥)	有機百倍、又は マッスルモンスター 鈴成 水酸化マグネシウム	5袋(100kg) 5袋(100kg) 20～40kg	土壌散布	水酸化マグネシウムは必要に応じて施用します。pH6.5以上の土壌では、硫酸マグネシウムを使用します。
8～9月	樹勢回復	菌力アップ 糖力アップ	5リットル 5kg	灌水 7日おき に3～5回	500～1000リットル程度の水に希釈し、全面に灌水します。樹勢が弱い圃場は、回数多めに灌水を実施します。
2月	花芽分化後	有機百倍、又は マッスルモンスター 鈴成 硫酸カリ	3～5袋(60～100kg) 5袋(100kg) 10～20kg	土壌散布	マッスルモンスターは、やや肥効が遅れるため、基本的には有機百倍を使用する。カリは、生殖生長期に必要であり、追肥として施用すると良い。土壌pHが低すぎる(5.0以下)の場合は、有機石灰を使用して矯正する。
5月	果実肥大期	有機百倍	0～2袋(40kg)	土壌散布	着果負担、玉肥大などの生育具合によって、追肥を行う。チツとカルシウムを同時に効かせたい場合は、硝酸カルシウムで代替しても良い。
5～6月 果実仕 上げ	着色促進 品質向上 (糖度アップ)	コーソゴールド 本気Ca(マジカル)	500倍希釈 1000倍希釈	灌水(水量適宜) 3～4回	1トン程度の水に希釈し、灌水する。生殖生長を促進し、着色や食味の向上を促す。カルシウムを効かせると、果肉がしっかりとて、濃厚な味わいとなる。本格にがり1000倍を併用するとさらに良い。
	収穫後腐敗 の予防	本格にがり 純正木酢液	1000倍希釈 500倍希釈	葉面散布、または 灌水 3～4回	にがり・木酢は細胞壁や繊維を強化し、貯蔵性を高めます。袋掛けをしていない場合は、葉面散布を避け、灌水とする。(果皮障害予防のため)

※地域、作型によって、時期が異なりますので、生育ステージで判断してください。

※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。

※幼木園では、施肥量を減らしてください。